

1 γ -GTとは?

γ -GT (ガンマ・グルタミルトランスフェラーゼ) は、肝臓、腎臓、膵臓などに存在する酵素で、たんぱく質の分解や合成、薬物の解毒などに関与しています。血液中の γ -GTが上昇するのは、肝臓や胆道(胆管・胆のう)に何らかの障害があるときです。肝臓で作られた γ -GTは、肝臓から胆管内の胆汁に分泌(排泄)されるため、肝臓に負担がかかる状態が長く続き肝障害が引き起こされた場合や、肝臓内の微細な胆管から十二指腸に至る太い胆管までの間に胆汁の流れが滞る病変が存在すると、 γ -GTは血液中に漏れ出てしまうため血液中の値が上昇します。

また、 γ -GTはアルコールに敏感に反応し、肝臓で作られる量が増加するため血液中の値が上昇します。飲酒習慣により血液中の γ -GT値は変わるため、血清 γ -GTの基準範囲は、医療機関や検診機関により多少の幅がありますが、飲酒習慣を含めるかどうかで異なります。特定健診では、51単位以上を保健指導の対象、101単位以上を医療機関受診を推奨する判定値としています。

検査のはなし vol.11

専門医が教える

検査値異常を指摘された際に考えること ⑪

「血清 γ -GTが高いと言われました」

日本臨床検査専門医会 出居 真由美

2 γ -GT高値で考えられる病気

血清 γ -GTが高値となる代表的な病気は、アルコール多飲が原因の脂肪肝やアルコール性肝障害です。軽度の上昇(100単位以下)では節酒や禁酒により、1カ月もすれば正常値に戻ることが多いです。 γ -GT高値が判明したときの値が200単位以上の場合、アルコールによる肝臓のダメージが強いことが考えられ、多くの場合AST、ALTといった肝細胞障害の指標も高値になっています。その状態は慢性肝炎であり、さらに多飲を続ければ数年後には肝硬変となり命を脅かす病気へと進展してしまいます。また、非アルコール性の肝障害や肝がんでも高値となります。

胆道系の病気では胆石症や胆管結石症、および稀ですが原発性胆汁性胆管炎が挙げられます。胆道系のがん(胆のうがんや胆管がん)が隠されていることもあります。

その他、薬物性の肝障害が挙げられます。原因薬剤は抗生物質や解熱剤(風邪薬など)、抗精神病薬などです。近年、サプリメントも原因として注目されています。

3 γ -GT高値と言われたら

異常高値を指摘されたら医療機関を受診してください。アルコール多飲の場合は、まず禁酒を指示されるでしょう。アルコール歴がなくても、上述の薬剤を長期間内服している場合は、処方医と相談のうえ薬剤の変更や休薬で経過を見ることになるでしょう。肝障害や胆石、胆道系のがんの有無を確認するため、超音波検査やCT・MRIなど精密検査を行うこともあります。

肝臓は沈黙の臓器であり、 γ -GTが多少高値でも症状は出ません。しかし、さまざまな病気のサインかもしれません。たかが γ -GTと考えず、早めに医療機関を受診することが重要です。

図 γ -GTが上昇する主な原因

